

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業	経常事務事業	建設事務事業
--------	--------	--------

● 第 5 次行政改革大綱第 1 次アクションプランとの関連	
☐ 有	
☒ 無	

1 ■ 事務事業の概要

1 - 1 事務事業の名称	歴史のまちイメージづくり事業								
1 - 2 担当	部	経済建設部	課又は施設	産業振興課	係	商工振興係	評価票作成者	観光・消費生活担当係長 兼 子公司	
1 - 3 総合計画における施策の体系	節	都市基盤・産業振興 「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」			基本施策	観光		コード	3—3—4
					単位施策(中)	観光 P R の推進		コード	3—3—4—1
	項	産業振興			単位施策(小)	歴史のまちのイメージづくり		コード	3—3—4—1—2
1 - 4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	歴史に興味のある県内外の人々		意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）		三大古戦場のひとつである「桶狭間古戦場伝説地」の名称とともに歴史のまち「豊明市」のイメージが広く定着している。			
1 - 5 事務事業の内容	地元の人が地元の観光資源を知らない事があるので、地元の人に愛着を持ってもらうよう P R していく。 史跡桶狭間古戦場伝説地の公園内に大型の観光案内版を設置して P R に努める。								

2 ■ 事務事業実施の状況

2 - 1 事務事業の実施における基本認識		事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み			社会状況等の事務事業がおかれる環境把握			市民ニーズの認識			
	平成18年度	観光ガイドマップの作成を企画しているため、参考にするため資料収集、先進地視察を行った。			国、県の施策として魅力ある観光地づくり等の推進を P R していくことが求められている。			市民ニーズを把握するには、アンケート調査を実施する必要があるが経費の面から難しいため、古戦場まつり参加者から意見、要望を聞き取る。			
	平成19年度	観光ガイドマップの素案を作成するために資料収集や現地確認等を行った。			〃			〃			
	平成20年度										
	平成21年度										
	平成22年度										
	平成23年度										
	平成24年度										
	平成25年度										
	平成26年度										
平成27年度											
2 - 2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名				前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明				
	「桶狭間古戦場と周辺史跡めぐり」講座の参加者（人）				6 0 （人）	6 0 （人）	・ 1 回定員 3 0 名 ・ 年 2 回開催 ・ 講座参加者のうち市外の参加者割合を 5 割目標とする。（平成 2 0 年度から実施予定）				
2 - 3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）	活動実績 a（回）	平成 1 8 年度	平成 1 9 年度	平成 2 0 年度	平成 2 1 年度	平成 2 2 年度	平成 2 3 年度	平成 2 4 年度	平成 2 5 年度	平成 2 6 年度	平成 2 7 年度
	直接事業費 b（千円）	7	7								
	人件費 c（千円）	0	0								
	合計コスト d（b + c）（千円）	243	243								
	単位コスト d / a（千円）	243	243								
		1 人当たり 35	1 人当たり 35	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 ➡ 人件費（事務） 2 名 × 3 日 × 8 h × 3,200 円 = 153,600 円 （会議・研修） 1 名 × 7 日 × 4 h × 3,200 円 = 89,600 円 活動実績は、会議と研修会の回数

		平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
２－４成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績（単位）	０（人）	０（人）								
	後期目標値に対する達成度（％）	０（％）	０（％）								

３ ■ 事務事業の自己評価結果

３－１ 評価結果 (アウトカム自己分析)		平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
単年度 担当課評価		A	A								

- ４段階評価結果

A：上位目的である施策に貢献しているので継続する
B：事務事業の実手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
C：縮小等、事務事業としての見直しが必要
D：事務事業の廃止が相当
- 判断の基準

必要性（必要な事務事業であるか）
公共性（公が実施する意味があるか）
妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
３－２評価の内容	平成18年度	観光ニーズの変化を捉えた上で、興味の持てる観光情報を発信できるようにすること。	国、県が推進する地域観光促進事業等の情報を収集し、特色ある地域観光情報が発信できるように取組む。	史跡の案内情報として活用されているが、歴史のまちのイメージに結びつく情報発信の内容にはなっていない。
	平成19年度	桶狭間古戦場の知名度を高めるため他市町と連携して取り組むこと。	〃	観光ガイドマップの素案を作成するために資料収集や現地確認等を行った。
	平成20年度			
	平成21年度			
	平成22年度			
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

４ ■ 事務事業の総合評価結果

		結果	審査会による改善方向の指示
４－１総合評価の結果	平成18年度	A	継続して事業を進めること。
	平成19年度	B	具体的な講座の手法を検討するとともに、歴史イメージづくりに努めること。
	平成20年度		
	平成21年度		
	平成22年度		
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		